



みらいつうしん

11月号

2019年11月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

たくさんの体験を通して育つ子どもたち

秋の紅葉が美しい季節になりました。今年は、大型台風や大雨の影響で、川崎地区でも大きな災害に見舞われました。被災された皆様にお見舞い申し上げます。そして、改めて天災の怖さを感じたと同時に、当園も保育中に災害が起きた時のことを考え、的確な判断と早めの避難の大切さを痛感しました。また、この時期の行事に関しても、引き続き柔軟な対応ができるよう努めたいと思います。

さて、今年の運動会は、学年別にみらいこども園の園庭で行いました。全園児で行うことは出来ませんでした。が、「3歳児はのびのびと楽しく」「4歳児は元気パワーではつらつと」「5歳児は胸を張って逞しく意欲的に」をテーマに、普段とは全く違った姿を見せ、予定外の場所でもきちんとやるべきことを理解し、環境に順応する子ども達にただただ感心しました。また、1つの学年が続けて演技をしたことで、ご家族の方にとっても、より一層の成長を実感されたと思います。今回の運動会は、天候の影響で順延し、場所も変わりましたが、慣れ親しんでいる園庭で学年別に行うのも良いのかなと感じました。運動会後も、遊びに反映され、友達と協力し応援する気持ちや最後まで頑張る諦めない心が育ったことはとても嬉しく思います。

園庭で育てているサツマイモ掘りは、10月23日に行いました。まず、にじ組さんが、飛び込むように畑に入り、たくさん茂ったつるを引っ張りました。すると、あちこちから「あった！あった！」「すごーい！でっかい」と声が上がって、真っ黒になってお芋を収穫しました。大きいお芋は、なんと1キロ以上のものもあり、何人ものお子さんが計りを使って「何グラムあるかな？」と、大きさや重さにも関心を持っていました。また、中には、お芋よりも畑から出てきたカエルや虫に興味を示す子もいて、お子さんの感性はいろいろだなと思わず笑みがこぼれました。他学年の園児達も楽しそうにしているにじ組さんの姿に吸い込まれるかのように、見様見真似で、つるを引っ張ったりお芋を探したりして満足そうでした。収穫前は、育っているかと心配していましたが、総数で201個のお芋が取れました。次回は、お芋の味覚を味わいます。今から楽しみです。

ほし組さんのお弁当遠足は、私も参加し、10月24日に行いました。初めて、園外にお出かけということで、朝から、レジャーシートや水筒などを見せ合い興奮している様子でした。水筒をもって友達と手をつなぎ、いざ、「江川せせらぎ遊歩道」へ出発。ほし組さんは、普段、手をつなぐ経験が少ないので、少し歩くと手を放して座り込んだり、我さきと駆け出したり、歩きながらけんかが始まったりとかなりの珍道中でした。目的地に到着して、写真撮影をする時も、「喉乾いた」「トイレに行きたい」という子が次から次へと出てしまい、30分以上の時間がかかってしまいました。それでも川の水の流れや生物に興味を持ち、石や木の実、虫などを探したり、岩山や草木の中を走り回ったり、森林の中を探検して「トトロに会えるかな？」等と言いながら45分ぐらいでしたが遊びを楽しみました。こども園に戻ってからは、お楽しみのお弁当タイムです。シートを敷いてお母さんが作ってくれたおにぎりをどの子も嬉しそうに食べていました。中には、「たくさん食べてね」とイラスト入りのメッセージもあって、お子さんだけでなくお母様も一緒に遠足を楽しんでいるのだなと心が温かくなりました。そら組、にじ組の遠足も、発達によって内容が異なりますが、たくさんの発見やエピソードに溢れよい思い出作りができることと思います。

このように、学年やお子さんの興味関心によって、人と関わる体験活動から学ぶものは違いますが、体験したことは、知恵として生まれ変わり次への意欲につながります。失敗と成功を繰り返し積み重ねることで自信を持つことができるので、私たち保育者も幼児期の体験活動は人間形成の基礎としてとても大切なことと肝に銘じて、一人一人に寄り添っていきたいと思います。

